

科目名	両眼視機能治療学演習			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 松岡久美子					科目ナンバー	T1C104
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	両眼視機能治療の基本となる、眼位治療が説明できる。						
授業の到達目標	<p>眼位治療には、屈折矯正、プリズム矯正、視能矯正、ボツリヌス毒素をはじめとする薬物治療、斜視手術がある。</p> <p>①眼位治療のうち、観血的治療を行う前の眼位検査について、実際の症例に即して最適な治療方針を選択でき、術後必要な検査が実践できる。</p> <p>②各症例について学んだ後は、テーマを決め、文献調査をし、修士論文作成につなげていく。</p>						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	松岡久美子	教授	斜視の術前・術後検査 斜視手術に必要な、さまざまな検査法について学び、実践できる。			
	2	松岡久美子	教授	斜視の術前・術後検査 斜視手術に必要な、さまざまな検査法について学び、実践できる。			
	3	松岡久美子	教授	斜視の術前・術後検査 斜視手術に必要な、さまざまな検査法について学び、実践できる。			
	4	松岡久美子	教授	斜視の術前・術後検査 斜視手術に必要な、さまざまな検査法について学び、実践できる。			
	5	松岡久美子	教授	斜視の術前・術後検査 斜視手術に必要な、さまざまな検査法について学び、実践できる。			
	6	松岡久美子	教授	症例に即した検査法 実際の症例に即し最適な手術の量定を行うための検査法を選択することができる。			
	7	松岡久美子	教授	症例に即した検査法 実際の症例に即し最適な手術の量定を行うための検査法を選択することができる。			
	8	松岡久美子	教授	症例に即した検査法 実際の症例に即し最適な手術の量定を行うための検査法を選択することができる。			
	9	松岡久美子	教授	症例に即した検査法 実際の症例に即し最適な手術の量定を行うための検査法を選択することができる。			
	10	松岡久美子	教授	症例に即した検査法 実際の症例に即し最適な手術の量定を行うための検査法を選択することができる。			
	11	松岡久美子	教授	テーマを決め、文献調査、修士論文の作成につなげていくことができる。			
	12	松岡久美子	教授	テーマを決め、文献調査、修士論文の作成につなげていくことができる。			
	13	松岡久美子	教授	テーマを決め、文献調査、修士論文の作成につなげていくことができる。			
	14	松岡久美子	教授	テーマを決め、文献調査、修士論文の作成につなげていくことができる。			
15	松岡久美子	教授	テーマを決め、文献調査、修士論文の作成につなげていくことができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点を、質問したり、ノートや配布資料、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、(株)コームラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年 その他、随時 指示する。						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。1回欠席につき5点を減点する。遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (ディプロマ・ポリシー2に相当する)						